

17:1 ユダの王アハズの第十二年に、エラの子ホセアがサマリアでイスラエルの王となり、九年間、王であった。

17:2 彼は【主】の目に悪であることを行つたが、彼以前のイスラエルの王たちのようではなかった。

17:3 アッシリアの王シャルマネセルが攻め上つて来た。そのとき、ホセアは彼に服従して、貢ぎ物を納めた。

17:4 しかし、アッシリアの王はホセアの謀反に気がついた。ホセアがエジプトの王ソに使者たちを遣わし、アッシリアの王には年々の貢ぎ物を納めなかったからである。そこで、アッシリアの王は彼を捕らえて牢獄につないだ。

17:5 アッシリアの王はこの国全土に攻め上り、サマリアに攻め上つて、三年間これを包囲した。

17:6 ホセアの第九年に、アッシリアの王はサマリアを取り、イスラエル人をアッシリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に住まわせた。

17:7 こうなつたのは、イスラエルの子らが、自分たちをエジプトの地から連れ上り、エジプトの王ファラオの支配下から解放した自分たちの神、【主】に対して罪を犯し、ほかの神々を恐れ、

17:8 【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の風習、イスラエルの王たちが取り入れた風習にしたがって歩んだからである。

17:9 イスラエルの子らは、自分たちの神、

【主】に対して、正しくないことをひそかに行い、見張りのやぐらから城壁のある町に至るまで、すべての町に高き所を築き、
17:10 すべての小高い丘の上や、青々と茂るどの木の下にも石の柱やアシェラ像を立て、
17:11 【主】が彼らの前から移された異邦の民のように、すべての高き所で犠牲を供え、悪事を行つて【主】の怒りを引き起こした。
17:12 【主】が彼らに「このようなことをしてはならない」と命じておられたのに、彼らは偶像に仕えたのである。

ホセアは「以前のイスラエルの王たちのようではなかった」と記してありますが、それは信仰的に違っていたというではありませんでした。むしろ信仰的には「主の目の前に悪を行つた」とあり、やはり偶像礼拝の罪は変わらなかったのです。

何が違っていたかという点、他の王たちは強国に恭順しその偶像を受け入れるほどであったが、彼はアッシリアには従わなかったということです。しかしそれは信仰から出たことではありませんでした。主に依り頼まずにエジプトを頼りとしたのでした。

信仰のない人はこのように、閉ざされても困難に会っても、その選択は不信仰へ不信仰へと向いてしまいます。信仰の人は、失敗してもすぐに主に立ち返り、悔い改めて神様との関係を回復して、善い歩みを始めます。

結局このようにアッシリアに囲まれてしまったのは、イスラエル全体の罪なのだと、聖書は記します。1人の王の影響力はありますが、民の判断はその不信仰な王に従うということで、自分たちも同じようにしたのです。

私たちは環境や状況のせいにししないで、あくまでも信仰の決断は自分自身にかかっているのだということを認めましょう。そして困難や問題の中で、また神ならぬものに頼ることをせずに、神様に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

